

道徳だより



テーマ：みんな集合！—第25回道徳教育研究大会—

令和5年12月
京都市立道徳教育研究会
広報部
(第8号)

大会主題

よりよい生き方を求め、自ら気づき、考え、
行動する子の育成を目指した「しなやかな道徳教育」
～自己の生き方についての考えを深める学習を通して～

育成 部会

文責

副部長 白井 隆 (花背小中)

部会のテーマ

「障がいのある子どもたちのニーズに合った
道徳教育のあり方」

授業の見どころ

◆児童の実態に合った絵本を教材化

「絵本」は、児童が興味をもちやすく、役割演技など体験活動もしやすい内容のものが多くあります。育成部会では、1つの絵本を教材にして各校の育成学級の実態に合わせて実践したことを交流しながら検討した授業を研究大会で提案します。

◆自分の思いを表現しやすくする「パペット」

自分の気持ちを表現することが苦手な児童のための支援として「パペット」を活用した実践を提案します。



中心発問

主人公の「たあぼう」は、どのように言えばよかったのでしょうか。



低学年 部会

文責

副部長 三橋 柚里 (九条塔南小)

部会のテーマ

「一人一人の 子どもの思いを引き出す授業づくり」
～道徳的価値に向かって、誰もが
自由に交流し合える部会を目指して～

授業の見どころ

◆中心発問で考えを深められるように…

教材「お月さまとコロ」のコオロギのコロが友達のギロに謝ろうとする決心する場面を中心発問で取り上げます。素直でいることの良さや素直でいると明るい気持ちになれることに気づいて考えを深められるように、中心発問の直前にお月さまの言葉にふれるようにします。また、「あやまるんだ。」「あやまらなくてもいいんだ。」というコロの葛藤を視覚化して板書に残すようにします。低学年部会では、中心発問で考えを深められるように意図した発問の流れと板書を提案します。

◆道徳的価値を自分事として

これまでの生活や本時の学習をもとに、本時のねらいとする道徳的価値について自分事として振り返り考えられるように提案します。

中心発問

コロはどうしてギロに謝ろうと決めたのでしょうか。



部会名	教材名	授業者
育成部会	「いじわる」	宮田勝行（鳳徳小）
低学年部会	「お月さまとコロ」	井保若菜（七条小）
中学年部会	「雨ととの様」	大内彩輝子（安井小）
高学年部会	「ブランコ乗りとピエロ」	山本 有美恵（伏見住吉小）

日時 令和6年1月12日（金） 午後2：00～
（受付午後1時30分～）

場所 京都市立美豆小学校

行程

13:30	14:00	14:45	15:00	16:10	16:20	17:00
受付	公開授業	移動	学年別 分科会	移動	全体会	

中学年部会

文責

副部長 岩下紅葉（伏見住吉小）

部会のテーマ

「伝え合う・つながり合う」
～価値 他者 人間理解を通して、自己の生き方についての考えを深め合うことのできる道徳の時間～

授業の見どころ

◆ねらいに向けた発問と展開

本時のねらいにある『集団の向上』に重点をおき、授業改善を行ってきました。単発的な問いになってしまうように発問を精選し、お話の流れやそれぞれの立場を想起しながら考えることができる授業を提案します。

展開前段では、2つの発問を通して門番の気持ちを考えていきます。その際、教材にでてくる『門番』『家来』『との様』にも視点を当てながら補助発問でよりねらいに迫れるようにします。

展開後段では、めあてに立ち返り、自分の所属している集団をイメージしながら『きまりはなぜ大切なのか』ということを考えます。

中心発問

なぜ門番は、門を開けなかったのだろう。



高学年部会

文責

副部長 神山 庄太（太秦小）

部会のテーマ

「考えをアウトプットする楽しさを知り、
自己の未来につながる授業づくり」

授業の見どころ

◆自分の考えをもっと伝えたい！

発言する、文章に表す、絵や図に表す、役割演技するなど、考えをアウトプットする手段はいろいろです。ここで、肝心なのは「分かってほしい」「考えたい」「伝えたい」という気持ち。それらが、進んでアウトプットしようという気持ちにつながります。そのために、高学年部会では、課題意識を持たせるための工夫や考えたくなる発問についてみんなで考えてきました。研究大会の授業報告では、考えをアウトプットするための仕掛けや問い返しにぜひ注目ください。



中心発問

どうして、サムをにくむ気持ちが、ピエロの心から消えたのでしょうか。